

エイズ国際会議を前に

①

「同性愛者であることが同僚にばれると思うと、怖くて死にたいな」と

大阪府茨木市立北陵中学校の体育館。約八十人の三年生を前に、教諭が一週間の電子メールを朗読した。エイズウイルス(HIV)に感染した同性愛者の男性が、神戸市内に事務局を置く非政府組織(NGO)「BASE KOBE」に寄せた相談だった。

男性は職場で、自分が同性愛者であることを隠し続けてきた。投薬治療を受ければ発症を遅らせることができる。しかし保険を使うと、会社に知られる恐れがある。治療に踏み切らず、だれにも何も言えないまま、苦しみ続けているという。

朗読が終わると、同NGO代表でアジア・太平洋地域エイズ国際会議の財務委員を務める繁内幸治さん(右)が生徒たちに

予防と治療

啓発、難しいバランス

メッセージは伝えられたのか。繁内さんは「HIVについて語る。出した表情で語った。」

繁内さんは「HIVについて語る。出した表情で語った。」

問いつけた。「もう普通に生きられなくなつた」と話すこの人に、皆さんならどんな言葉をかけてあげますか」

後日、同校の教諭から繁内さんにメールが届いた。生徒が「絶対に何が何でも生きてください」と書いてきた、という内容だった。「生きることは大切なこと、というメッセージは伝えられたのか。繁内さんは「HIVについて語る。出した表情で語った。」



エイズと同性愛について、中学生に語りかける繁内さん—大阪府茨木市立北陵中学校

◆エイズに関する相談窓口

健康福祉事務所や保健所で受け付けている。検査は無料・匿名だが、実施日は地域によって異なり事前にお問い合わせは、エイズ予防財団の「神戸エイズサポートライン」で聞ける。8カ国語、24時間対応。☎078-265-6262 「BASE KOBE」は、インターネットで相談を受け付けている。ホームページアドレスは<http://www.kobestory.com/baseko>

にも旅館を訪ね、中学生た北陵中学校では、性教と編をついて、エイズ育を通じて命の重さや生への理解を深めている。き方を考えさせる取り組みを三年前から続けている。繁内さんは「子どもは成長を考えた話ができるかは微妙だ。神戸市の担当者は「人えれば、性の問題は避けられない。正しい知識を伝えることが問題行動を抑止力になる」と話す。冊子も一部「思う」と竹原幸治校長。の学校では利用されていないという。

基礎知識の指導に加え、検査を促すのも啓発

正しい性教育が一番の抑止力

の主目的の一つ。神戸市保健所の井上明彦氏は「検査をして早期に見れば、エイズは死ぬ病気ではない」と語る。

研究が進み、今ではHIVに感染しても、薬を欠かさず飲み続けられ、通常の生活を送ることが出来る。二〇〇四年の厚生労働白書は、エイズが「致死的な疾病から慢性的な疾病へ」変わってきていると記している。

ただ、そうした進歩をあまり強調すると、意識が緩み、検査を受ける人が減ってしまう。逆にエイズの怖さを強調し過ぎると、検査そのものが敬遠されることになりかねない。「バランスが難しい」と繁内さんは言う。

最近では中高年層で突然エイズを発症する人が増えている。コンドームを装着せず検査にも行かなかったためとみられる。

HIVに感染すると、薬だけでも費用は年間二百五十万円程度に及ぶとされる。医療費の増大が懸念されるが、「エイズ

は国民全体の問題」と繁内さんは強調する。

一九八七年、神戸で国内初のエイズ患者が報告された。十八年を経て、その街で初めて開かれる国際会議。関係者が寄せられる期待は大きい。

「第七回アジア・太平洋地域エイズ国際会議」は七月一―五日、神戸国際会議場(神戸市中央区)などで開かれる。患者・感染者をはじめ、行政、企業、NGOなどから三千人以上が集まり、シンポジウムやワークショップを行う。六月三十日―七月三日には、神戸アート・ビレッジセンター(同市兵庫区)でエイズに関するシンポジウムや映画の上映などが開かれる。

